

令和2年度 栗東市立図書館基本的運営方針に定める目標値に対する評価一覧

	目標項目	平成28年度 (計画策定年)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	現在値 (令和2年度)	目標値 (令和3年度)	方針での 該当箇所	取組方法	課題・問題等	自己評価	備考	外部評価	外部の意見
1	年間の図書館利用登録者数	1,946人	1,961人	1,844人	1,477人	929人	2,050人	① ②	利用啓発 (HP等、新規転入者への利用案内配布)	非来館者にPRできる事業、広報活動を実施する必要がある。	2		2	コロナの影響による来館自粛が減につながったと思われるが、同様のコロナの影響があった令和元年度からさらに減少した要因を分析する必要がある。
2	図書館実利用者数	17,285人	16,695人	15,584人	14,082人	10,862人	19,000人	① ②	利用啓発・行事広報 開館日拡大検討 市民のニーズに合わせた資料選定	図書館へ行きたいと思わせる事業・広報活動を行う必要がある。 図書館に行きやすい開館日を検討する必要がある。 魅力ある蔵書構成となるよう、ニーズに合わせた資料選定を行う必要がある。 感染症の心配なく安心して来館できる環境を整える必要がある。	2	・4/13～(本)5/17、 (西)5/31新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館 ・8月より貸出冊数10冊 →15冊	2	実利用者一人あたりの年間貸出数が大幅に拡大している点は、魅力ある蔵書構築に取り組んだ成果として評価できる。また、一行の図書館など工夫のある企画があり、人気があった。来館していない人へのPRをどう行うかが課題である。
3	図書館実利用率	25.50%	24.40%	22.60%	20.24%	15.51%	28.20%	① ②						
4	年間貸出冊数	641,573冊	630,862冊	600,638冊	542,592冊	470,872冊	700,000冊	① ②	貸出制限冊数の拡大 魅力ある書棚作りのための書架構成の見直し 展示等による図書の紹介 HP等を活用した図書・展示等の紹介 子ども世代への読書普及活動	読みたい本と出会う魅力のある書棚・展示にする必要がある。 展示等について、利用者に届きやすい広報を行う必要がある。	2		2	コロナによる来館自粛で大きく影響を受けたが、貸出制限冊数の拡大、お楽しみセットのような工夫のある企画など、様々な利用拡大に対する取組みにより、利用冊数の減少を最小限に留めることができた。
5	市民一人当たりの年間貸出冊数	9.4冊	9.2冊	8.7冊	7.8冊	6.7冊	10.4冊	① ②						
6	おはなし会の参加人数	776人	810人	723人	546人	36人	800人	③ ⑤	今後のあり方についての検討	感染症の心配なく安心して参加できる実施形態を検討する必要がある。	2	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためほぼ休止。 8月～本館「えほんタイム」、 3月本館おはなし会(人数制限等有り)	2	コロナ禍での開催自粛は仕方ないものと思われるが、今後の利用者参加型イベントの開催方法について検討する必要がある。
7	障がい者サービス利用人数	11人	10人	13人	14人	11人	20人	① ⑤ ⑥	サービス対象者への広報	市担当課との連携により、対象者に図書館利用への興味を持ってもらう必要がある。	2		2	コロナで積極的には広報できなかったのではないと思う。栗東市に在住する障がいを持つ人全体から見ると、まだまだ利用人数が少ない状況であり、引き続き利用人数拡大の取組みが望まれる。
8	専門職員の司書資格者の割合	100%	100%	94%	100%	100%	100%	① ②	司書によるレファレンス、各種講座の実施、認知度の向上	司書によるレファレンス等、司書の働きについて知ってもらう必要がある。	3		3	専門職員の確保が困難な時代に司書資格者の割合100%を継続できていることは評価できる。会計年度任用職員についても、引き続き司書資格者の確保に努められたい。
9	年間蔵書購入冊数	10,932冊	10,021冊	9,866冊	10,087冊	9,954冊	11,000冊	① ② ④	購入計画に基づいた選定、購入	出版状況の変化に応じ、計画を見直しながら適正な資料購入を行う必要がある。 図書価格の上昇により、資料費の見直しが必要である。	2		2	予算に対し図書価格が上昇しているのであれば、単価の低い本ばかり買うわけにもいけないので、目標に届かないのは致し方ない面もある。購入冊数拡大に向けた積極的な取組みが望まれる。
10	図書回転率	2.1回	2.1回	2.1回	1.8回	1.6回	2.3回	① ②	利用ニーズに合わせた資料選定 展示等による資料の紹介	利用ニーズに合わせた資料選定を行う必要がある。展示について、幅広く興味を掘り起こせるようなテーマ設定が必要である。	2	・4/13～(本)5/17、 (西)5/31新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館	2	展示・企画などよく考えられている。また、利用ニーズに合わせた資料選定が良好な図書回転率を維持できている要因と思われ、評価できる。
11	郷土資料の収集冊数	—	209冊	159冊	181冊	177冊	—	④	市役所担当課への依頼、広報 出版情報の収集	市役所担当課への依頼及び郷土資料情報の収集を行う。	3		3	一般に公開されている地域に関する資料だけでなく、市役所が刊行する行政資料についても積極的に収集整備されている点は大いに評価できる。

項目11については、目標値に含まれてはいないが、基本的運営方針項目の評価数値として列記している。

方針での該当箇所は下記の栗東市立図書館基本的運営方針の基本運営方針6項目

- ①市民一人ひとりの生涯学習を支えます
- ②暮らしや仕事の課題解決を支援します
- ③学校、家庭、地域と連携して子どもの読書活動を推進します
- ④郷土の歴史や行政資料を収集、保存、提供します
- ⑤市民との協働により、図書館運営や活動の充実に努めます
- ⑥図書館利用が困難な人を支援します

※ 令和3年度まで評価をおこなう

※ 内部の評価後、図書館協議会に外部評価を実施してもらう。

評価基準

5	当初設定した目標を著しく上回る成果をもって達成
4	当初設定した目標を上回る成果をもって達成
3	当初設定した目標を概ね計画どおりに達成
2	当初設定した目標を未達成
1	当初設定した目標を著しく未達成